

100年前の ビジネスミッション



1909-2009 发沢栄一記念財団 度米実業団」100周年記念事業



明治ビジネスマンの アメリカ視察旅行から100年…



第27代アメリカ合衆国大統領 ウィリアム・タフト



発明王トーマス・エジソン

1909年、渋沢栄一が団長となり、東京・大阪 など6大都市の商業会議所を中心とした民間 人50名を率いて、3ヶ月間にわたりアメリカ 合衆国の主要都市を訪問しました。この日本 初の大型ビジネスミッションは「渡米実業団」 と呼ばれました。渡米実業団は、米国各地で 政治・経済・社会福祉・教育など多方面の施 設を見学し、第27代アメリカ合衆国大統領ウ ィリアム・タフト、発明王トーマス・エジソン、 鉄道王ジェームズ・ヒルなど各界実力者に面 談し、成長著しい米国社会を体感しました。 それから1世紀がたった今日、米国社会が大 きく変わろうとする兆候が見られ、日米関係 も再構築を迫られています。日米民間外交の 基礎を築いた渡米実業団の団員たちは何を 思い、どのような影響を受け、その経験は現 代の私たちに何を語ってくれるのでしょう。

渋沢栄一と渡米実業団



渋沢栄一

「近代日本の資本主義の父」と呼ばれ、道徳と 経済の一致をモットーとして、500近くの企 業の設立に関与した渋沢栄一(1840-1931) は、経済界の組織化にも尽力しました。現在 の東京商工会議所の前身となる東京商法会 議所を1878年に設立するとともに会頭に就 任し、長年にわたって会議所をリードしまし た。20世紀に入ってからは、米国の潜在的な 成長力をいち早く見抜き、良好な日米関係が アジア・太平洋、ひいては世界平和にとって不 可欠になると予想しました。日本各地の実業 家や有望な若手に米国社会の本質を理解し てもらいたいと考えていた栄一は、69歳の高 齢にもかかわらず渡米実業団団長を引き受 け、3ヶ月にわたる米国訪問を成功に導きま した。その後、栄一は日米親善の架け橋として 重要な役割を果たしていきます。

未来へつないだミッション

渡米実業団は政財界に大きな影響をもたら しました。まず日米通商航海条約の改正 (1911年)に向けて、アメリカの政財界首脳と 交流し、東アジア、特に中国市場での平和裏 の競争、資本・技術提携の可能性について初 めて率直な意見をかわすことができました。 この結果、日露戦争(1904-05年)後悪化し 始めた日米関係を改善する環境を作り出し ました。民間経済人の主導で実業を通じて富 国になり、世界平和に貢献するという日本の 意志をアピールしたといえます。経済界にお いては、商工会議所の連携強化など民間交 流の組織化に成功し、戦後の日米財界人会 議へつながる太いパイプを築く出発点になり ました。またこの訪問によって日本の実業家 はアメリカへの理解を深め、国際理解教育の 必要性を認識しました。啓発された根津嘉一 郎、田辺淳吉などの団員たちは様々な分野で 活躍しました。



訪問各地の記念牌と徽章



ニューヨーク ホテル・アスターにて(1909年10月12日)

渡米実業団概要

(Honorary Commercial Commissioners of Japan to the United States of America)

目 的:日米両国の親善を進め、通商の発展を期すこと

時期:1909年8月19日出発(横浜港出港)~9月1日シアトル上陸~12月6日ホノルル着、同日出発~12月17日帰国(横浜港到着)

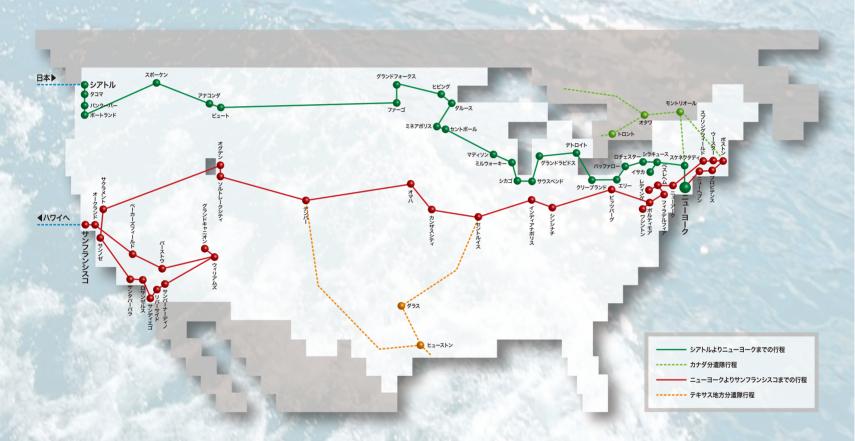
訪問先:米国主要53都市

参加者: 渋沢栄一(第一銀行頭取・当時)以下、東京・横浜・名古屋・京都・大阪・神戸6商業会議所代表者など51名

影響:商業会議所を通じて、日米経済界に太いパイプが築かれ、日米通商航海条約改正(1911年)や日米経済関係の拡大の基盤を構築。



渡米実業団が乗船したミネソタ号





スポーケンにおける歓迎会(9月11日)



シカゴのエジソン電気会社にて(9月25日)



視察中の渡米実業団一行-1



視察中の渡米実業団一行-2

帰国後の団員たち



東京商工会議所 所蔵 「記念写真帖」より

根津嘉一郎(1860-1940)

山梨の豪商の家に生まれ、1897年に東京に 出ると若尾逸平、雨宮啓次郎らと一緒に商売 をはじめ、甲州財閥を形成しました。1905年 に東武鉄道の社長に就任し、再建にあたりまし た。もともとビジネスで得た利益は社会に還元 すべきという信念を持っていた根津は、渡米実 業団の一員としてジラード・カレッジなど米国 の福祉教育施設などを見学し、実業家の大規 模なフィランソロピー活動に感銘をうけまし た。帰国後事業を拡大する一方で、1922年に は旧制武蔵高等学校(現在の武蔵大学)を設 立し、育英会活動も開始します。東西文化の融 合という理想を実践するため、世界に雄飛し、 自ら調査し思考できる人物を育成することを 教育理念に掲げました。収集した美術品・骨董 品は、現在根津美術館で公開されています。

松方幸次郎(1865-1950)



東京商工会議所 所蔵 「記念写真帖」より

明治から昭和の長期間にわたり民間経済外交に活躍した実業家です。明治の元老松方正義の三男で鹿児島に生まれました。エール、ソルボンヌ、オックスフォード各大学で法学を学んだ後、1896年川崎造船所初代社長に就任し、同社を日本最大の造船会社に育てました。渡米実業団に参加、得意の英語を駆使し、米国各界実力者と意見交換をしました。第一次大戦中、米国が日本に対して鉄材輸出禁止を発動した際には、鈴木商店の金子直吉、友愛会会長鈴木文二らと一緒に、渋沢栄一を助けて民間の力で銑鉄交換交渉妥結に至りました。美術収集家としても有名で、現在松方コレクションとして知られています。ライシャワー駐日大使の妻松方ハルの叔父にあたります。



田辺淳吉(1879-1926)

明治・大正時代の建築家で、合資会社清水組 (現在の清水建設株式会社)の技師長として活 躍しました。意匠を凝らした設計が特徴で、主 な作品には大阪瓦斯会社、渋沢倉庫株式会社 (共同設計)、東海銀行本店、第一銀行小樽支 店などがあります。また、渋沢栄一に贈られた 誠之堂・晩香廬・青淵文庫を設計するなど、渋 沢にゆかりのある建築家です。清水組の技師と して活躍していた田辺は1909年、渡米実業団 の随行員として米国を視察する機会を得ます。 米国各都市を巡るなかで、田辺は様々な建築 や、鉄筋コンクリート造の工法などを自分の眼 で見ることができました。その後、単身でヨーロ ッパに渡り、当時流行していた「セセッション」 など近代建築の新しい潮流に感銘を受けて翌 年帰国しました。この欧米視察は、建築家・田 辺淳吉のその後の活動に大きな影響を与えた と思われます。



財団法人渋沢栄一記念財団

当財団では、渡米実業団100周年を記念して、次の行事を企画しています。

- 1)2009年8月の渋沢史料館での企画展
- 2)「平成の渡米実業団(仮)」派遣
- 3)渡米実業団100周年記念シンポジウム

財団法人 渋沢栄一記念財団

渋沢栄一記念財団は、栄一の書生たちが立ち上げた勉強会にはじまり、 120年以上の歴史を持つ民間の財団です。

本拠地は栄一の自邸があった東京都北区王子・飛鳥山にあります。

「博物館(渋沢史料館)の運営」

「資料のデータベース化、活用促進」

「渋沢栄一研究の推進、知的ネットワークの構築」を

3つの柱として様々な事業を展開しています。

※特に明記の無い場合、掲載資料はすべて渋沢史料館所蔵です。

〒114-0024 東京都北区西ヶ原2-16-1(渋沢史料館内) Tel 03-3910-2314 Fax 03-3910-2849 資料に関するお問合せ:渋沢史料館

具件に関するの同日と・次八丈件店 Tel 03-3910-0005 Fax 03-5567-7289

http://www.shibusawa.or.ip